

# コロナ禍でも **新たな発見！** **チャレンジ！** **ステップアップ！**

## Zoom de ワークショップ「地域にあったらいいね」

生活クラブ運動を共に進める仲間としてワーカーズ・コレクティブをより身近に感じてもらい、ワーコレの働き方に共感を持ってもらうことを目的に、Zoom de ワークショップ「地域にあったらいいね」を11月12日に開催しました。

このワークショップは、コロナ禍で開催できなかった「秋のつどい」に替わる虹の街の講座として組合員を対象にした共催企画です。総勢22名がZOOMの小部屋に分かれて『地域にあったらいいね』の「なぜ」「どうすれば」を掘り下げながらの組合員活動から地域活動へのステップを、「やりたいこと」「できること」「必要なこと」を考えながら体感していただきました。

### — ワークショップに参加して —

虹の街理事長 福住洋美

ワークショップで「働く」を考えることは自分と向き合うことでした。グループワークで自己紹介に続き、最近熱中したことを披露。「最近熱中したこと」を話すのに、そもそもなんで？だと？など、自身に問うことになり、やったことはシンプルでも行動の背景を掘り起こすと自分がどんな人間で何を大事にしたいのか見えてくるようでした。

ワーカーズコレクティブは地域のニーズに応える事業を展開していますが、「地域でこれやりたい」という自分の気持ちを確認することが出発点なのです。自分のやりたいことで地域に貢献できたら、自分の役割と出番があったら高齢になっても働き続けられるかもしれない。事業には人・物・金も

もちろん必要ですが、「これをやりたい」という強くブレない想い、想いをシェアする仲間が大事ということも知りました。主体的な働き方のワーカーズコレクティブで、いろんな人が参画する地域づくりができるといいなと思いました。



## ういず キッチンカーでGO！

— 人や地域とのつながりの大切さを実感 —

11月からキッチンカーでおおぞらカフェやこども食堂を開催しています。

この事業は、「公益財団法人ちばのWA地域づくり基金」が公募した『休眠預金等活用法に基づく新型コロナウイルス対策支援事業』に申請して、ひとり親家庭や高齢単身者に食材や配食サービスを行いながら、暮らしのお困りごとを聞き取り必要なサービスを地域につなげていくためのものです。

事業期間は来年の9月末まで年間140回、毎回50食のランチまたは食材の配布を行います。こども食堂では、柏市のこども福祉課との連携でひとり親家庭にメールで連絡がいき、事前申し込みのあった家庭10世帯ほどに無料配達しています。また、高齢単身世帯には、地域包括センターとの連携でこちらも10世帯ほどに無料配達しています。草の根フードバンクや地域の農家さんから野菜の寄付もあって、多くの人に支えられて実施できている事業です。

ういずは、去年3月から6月まで居場所の閉鎖、たすけ合い事業の自粛が柏市より要請され活動ができませんでした。その間に、なじみの参加者の認知度が高くなった、心身のバランスを崩してしまう、またネグレクトなどの事例が聞こえてきました。改めて人と人とのつながりが心身の健康にも影響すること、居場所の意義、役割を痛感することになりました。コロナ禍で進むコミュニティの分断や貧困や孤立を少しでも回避できるように、無理のない範囲で力を尽くしていきたいと思います。ういず、COS 北田恵子



キッチンカーこども食堂（大津ヶ丘の風景）



ビビンバ



カレー



NECよりお米の寄付があり、グリーンロケットの選手が民家ギャラリーにお米を届けてくれました。（民家ギャラリー結の風景）

## 紙ふうせんのセカンドステップ

— 様々なかわり方で一人ひとりができることを 就労継続支援B型事業所として —

(企) ワーカーズ・コレクティブ紙ふうせんは1995年にリサイクルショップとして設立されました。地域で事業活動をしていく上で、自分たちがやりたいものと地域で求められているものが一致して、食にも転じて大勢の人が集まれるレストラン、配食事業を加えて2号店をオープン、その後2店舗を統合し、現在の清水店での事業展開になっています。

ワーカーズ・コレクティブメンバーに加え、紙ふうせん応援団のサポーター十数名が運営してい

ますが、これまで何らかの障がいや一般就労ができない、自宅に閉じこもっている方など共に仕事をしたいと、2019年1月に就労継続支援B型事業所を開業しました。0人からのスタートでしたが、現在は12人の方が契約して、紙ふうせんを利用してくださっています。特別支援学校卒業生の若者から68歳までの様々な皆さんとメンバー、サポーター、ボランティアと共に過ごす1日は、それはもうにぎやかです。

一人ひとりのできること、やりたいことを考慮

して作業をすすめます。広い5カ所の作業スペースで寄り合い、やりたいことの支援をします。利用者の皆さんが少しでもスキルアップできるように、6か月おきに作る支援計画とモニタリングの作成が楽しみになってきました。

ワーカーズ・コレクティブメンバーでのミーティングの回数は多くなり、みんなで話し合い、確認をしながら進めていく毎日です。

(企) ワーカーズ・コレクティブ 紙ふうせん 宮野洋子

